

その1 細胞から病気を診る

細胞検査士

森河 由里子(もりかわ ゆりこ)
主任

みなさんは細胞検査士という職業をご存じでしょうか?よく分からないという方でも、喀痰(かたん)検査や子宮がん検査などを受けられた方は多いのではないのでしょうか。これらの検査で採取された検体を顕微鏡で観察し、がん細胞がいるかどうかを見つけ出す検査を細胞診といいます。そして、細胞診を行う臨床検査技師を細胞検査士といいます。

細胞診は、がんの早期発見、治療の効果判定、再発腫瘍の確認などに用いられている検査法です。よく知られているのが、肺がん(喀痰)検査や子宮がん検査ですが、その他にも、乳腺や消化器(肝臓、胆のう、すい臓)、頭頸部(甲状腺、舌、口腔、咽頭、喉頭)など、ほぼ全身のがん診断に用いられ、体への負担も少ないことから、がん治療に欠かせない検査法となっています。

「細胞診は全診療科を対象としており、また本院は検査数も多いため、数多くの症例を経験することができます。多種多様な細胞を検査することにより、知識が広がり、より深い検査報告をすることができます。例えば、腹水があるがどこにも腫瘍が見当たらない症例で、腹水の細胞検査をしたとします。経験豊富な細胞検査士は、迅速に悪性の細胞を発見し、どの臓器のがんであるかを正確に分析することができます。がん細胞は数多くの種類があるため、積み上げられた経験や幅広い知識が必要になってきます。」

(森河細胞検査士)



現在本院の細胞検査士は、森河さんを含め2名です。今後は、細胞検査士育成のため後輩の指導にも力を入れていきたいと語ってくれました。